

# 市長施政方針



美祢市長  
村田 弘司

平成26年第1回美祢市議会定例会の開会に当たり、平成26年度の施政方針を申し述べ、市議会並びに市民の皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げたいと存じます。

わが国の経済は、長く続いたデフレで失われた自信を取り戻しつつあります。このことは、4四半期連続でプラス成長、落ち込んでいた有効求人倍率1.0倍を回復、全国全ての地域で1年前より消費が拡大、中小企業の景況感も製造業・非製造業ともプラスに転じるなど景気は着実に上向いていることをもってしても明らかであります。また、今後2020年のオリンピック・パラリンピック東京開催に向け、さらなる経済活動の活性化が期待される所でもあります。

しかしながら、4月からの消費税増税、社会保障制度改革、減反廃止を見越した補助制度の見直しなどの農政の改革は、市政や市民の皆様の日常生活に様々な影響を及ぼすことが予想されます。加えて、少子高齢化の進展、人口の減少、さらには合併に伴う地方交付税の優遇措置が平成27年度から段階的に縮小し、平成31年度をもって終了するなど、本市を取り巻

く環境は非常に厳しく、楽観視できない状況にあると強く感じております。

このような状況だからこそ、美しく誇りある美祢市を次世代にしっかり引き継いでいくため、私は、自らの責任と判断により、引続き美祢市の舵取りを着実に行っていく決意であります。

このため、平成26年度においては、総合計画に定める5つの基本目標である「安全・安心の確保」「観光交流の促進」「産業の振興」「ひとの育成」そして「行財政運営の強化」の実現に向けた諸施策・諸事業を着実に推進するとともに、台湾を中心とした国際交流、六次産業、世界ジオパークの3本の柱をさらに骨太にして参ります。

また、平成26年度は、第1次美祢市総合計画の計画期間10年のうち、前期5年間の最終年度であり、後期5年間の基本計画の策定に加え、総合観光振興計画や行政改革大綱など様々な計画を見直す重要な年であります。これまでの実績を踏まえ、市民の皆様、議会の御意見をしっかりとお聞きして策定して参りたいと考えております。

それでは、平成26年度の主な取り組みについて、申し述べます。

## 《1 安全・安心の確保》

まず、安全・安心の確保についてであります。

4月からの消費税の引き上げに際し、低所得者の負担を軽減するための給付金支給を的確に行います。

地球温暖化対策の一環として、電気自動車の普及促進を図るため、道の駅おふく、道の駅みとう、及び秋芳洞の駐車場に電気自動車充電器を設置します。

消防本部の東部出張所に、新しい高規格救急車及び高度救命処置用資機材を配備します。

美東簡易水道・秋芳簡易水道については、早期に良質な水を御提供できますよう硬度低減化の取組みを引続き進めて参ります。

また、消費者行政に関しまして、市民の皆様が、安全に安心して暮らしていただける地域社会づくりを目指し、引続き関係機関との連携を深めながら、自立した消費者の育成に取り組んで参ります。

## 《2 観光交流の促進》

次に、観光交流の促進についてであります。

本年度、市内中学生が台湾水里郷を友好訪問し、一般家庭にショートステイするなどにより、得難い貴重な体験を積んでおります。平成26年度は、台湾水里郷の中学生を招いて、於福中学校で交流活動を行います。今後は、水里郷との交流を一層深めていくうえで、中学生の派遣と受入を交互に行いたいと考えております。

秋芳洞を訪れた外国人観光客は、本年度4月から12月末までの累計を前年度同時期と比較しますと、数にして約7,000人、率にして約83%増えております。これまでの国際交流の推進の取組みに一定の成果が上がったものと考えております。

これをさらに増やしていくために、美祢国際観光交流推進協議会の活用や山口市との協力関係により、主に台湾、韓国に対する誘客活動を積極的に展開して参ります。市のホームページも英語、中国語、韓国語で閲覧できるように更新します。

毎年8月にアンモナイトフェスティバルが開催されてきましたが、これを見直し、新たに交流人口の拡大を目指して、台湾のランタンフェスティバルを参考に開催されるイベントの支援を行います。

来年のNHKの大河ドラマは、吉田松陰の妹が主人公ということ

で、山口県が舞台となり、全国に大きく映し出されることになると思います。映画やテレビドラマ、CMのロケ地誘致、撮影支援などを行うフィルムコミッションを設立し、特に山口県が舞台になる来年の大河ドラマや明治維新150周年に向けての誘致活動を積極的に行って参ります。

### 《3 産業の振興》

次に、産業の振興についてであります。

六次産業化の振興を図るために、関係者のネットワーク化を進め、六次産業化に取り組む個人・団体への支援を行います。

さらには、地域ブランドになりうると認められる加工品の開発等に取り組む個人・団体を支援します。本年度、「ミネコレクション」と銘打って地域ブランドを認定いたしました。パンフレット、ホームページ等により、また、フェアへの出品などにより、国内はもとより台湾に向けても、積極的なPRを展開して参ります。

農業では、新規就農を希望する若者に対して就農意欲の喚起と就農後の定着を図るための支援を行います。また、再生利用が可能な荒廃農地を再生し、農地の流動化を図るとともに、耕作放棄を抑制するための支援を行います。農家に深刻な被害を与える有害鳥獣の捕獲・追い払い・侵入防止といった対策及び捕獲担い手の育成に一層力を注いで参ります。

### 《4 ひとの育成》

次に、ひとの育成についてであります。

平成27年度から始まる幼児期の教育・保育、地域子ども・子育ての総合的な支援の事業計画を策定するとともに、ニーズに合った子育て支援策を展開するため、「すこやか子育て基金」を創設します。

学校教育では、全小中学校をコミュニティスクールに指定し、学校運営協議会を設置し、地域とと

もにある新しい学校づくりをスタートします。

教師の資質向上を図ることにより、世界へ羽ばたく人材を育成するとともに、教師の授業力を向上させることで、学力日本一の児童・生徒の育成を目指します。

小学校の3・4年生を対象にした、わかりやすい地域や美祢ジオパーク構想の内容を盛り込んだ社会科副読本を作成し、ふるさと学習に活用することにより、ふるさと美祢を愛する子どもを育てます。

また、美祢市の特別支援教育の実態調査・研究及び今後の特別支援教育の基本方針の策定、特別支援教育に関わる人材の育成、さらには市民への特別支援教育の理解啓発活動を通じて、美祢市全体の特別支援教育の充実を図ることで、特別支援学校の誘致活動を積極的に行って参ります。

市民の生涯学習の推進及び自主的なコミュニティ活動の拠点として伊佐町堀越地区の旧堀越小学校跡地にコミュニティセンターを建設します。

奈良の大仏は、長登銅山から掘り出した銅が使用されています。2年に1度、奈良の大仏が安置される東大寺にゆかりの自治体が集まって開催する東大寺サミットを美祢市で開催し、長登銅山はもとより美祢市の情報発信に努めます。

ジオパーク活動の推進については、本年度残念ながら日本ジオパークの認定は見送りとなりましたが、取り組むべき課題が浮き彫りにされましたので、これを踏まえたうえで、関係団体の皆様、市民の皆様と一丸になって取り組んで参ります。

まずは、ジオパーク活動推進の中心となる美祢市ジオパーク推進協議会を強力に支援します。併せてジオパーク活動の拠点施設である秋吉台科学博物館の活動の充実を図り、長登銅山跡駐車場のトイレを整備します。さらには、ジオパーク拠点施設の将来構想の検討に着手します。なお、3月5日に、長登銅山文化交流館において、山口大学との包括協力協定を締結いたしました。これを契機に山口

大学との連携を一層深め、ジオパーク活動の推進はもとより、市の振興に繋げて参りたいと考えております。

### 《5 行財政運営の強化》

最後に、行財政運営の強化についてであります。

観光事業特別会計について、経営健全化計画に基づき、資金不足を解消し、経営健全化基準の達成を目指します。

平成28年1月から社会保障・税番号制度いわゆるマイナンバー制の運用が開始されますが、これに適合するように、市の住民情報システムを更新します。併せて、情報管理の徹底を行う体制を整えます。

地域や団体の自主的なまちづくりに対して、引続き支援を行って参りますが、新たに地域や団体による、貴重な地形、地質、自然環境や歴史的な遺産の保護保全、再発見を行うための取り組み、いわゆるジオパーク活動に対して、支援を行います。

市庁舎をはじめ、多くの公共施設の老朽化が進行しています。これら公共施設の計画的な建替え、改修、統廃合などの将来のあり方について、専門家等も交えて検討を進めて参ります。

以上、総合計画の基本目標に沿って、主な取り組みを申し述べましたが、本年度に引き続き、「国際交流の推進」「六次産業の創出」「ジオパーク活動の推進」のトリプルエンジンを相互にリンクさせ、美祢市の持つ限りない可能性に向かって邁進していきたいと考えております。

今後とも、「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祢市」の実現に向けて、粉骨砕身、市政運営に力を注いで参る所存であります。

市議会並びに市民の皆様のお一層の御理解と御協力を心よりお願い申し上げます。平成26年度の施政方針といたします。